

令和3年度 財政状況資料集

総括表（市町村）

都道府県名		大阪府		市町村類型	Ⅲ－3		指定団体等の指定状況		区分		令和3年度(千円)	令和2年度(千円)	区分		令和3年度(千円・%)	令和2年度(千円・%)
							財政健全化等	×	歳入総額	70,520,926	68,578,567	実質収支比率	1.6	0.6		
市町村名		泉佐野市		地方交付税種地	1-5		財源超過	×	歳出総額	70,068,150	68,063,997	経常収支比率	99.5	109.4		
							首都	×	歳入歳出差引	452,776	514,570	(※1)	(107.7)	(115.3)		
							近畿	○	翌年度に繰越すべき財源	67,775	378,858	標準財政規模	24,512,912	23,556,856		
									実質収支	385,001	135,712	財政力指数	0.93	0.95		
人口		令和2年国調(人)	100,131	産業構造(※5)			中部	×	単年度収支	249,289	2,541	公債費負担比率	14.4	17.4		
		平成27年国調(人)	100,966				過疎	×	積立金	68,050	67,181	健全化判断比率				
		増減率(%)	-0.8				山振	×	繰上償還金	0	1,010,000	実質赤字比率	-	-		
住民基本台帳人口(※7)		令04.01.01(人)	98,840	区分	令和2年国調	平成27年国調	低開発	×	積立金取崩し額	0	298,433	連結実質赤字比率	-	-		
		うち日本人(人)	96,986	第1次	845	1,006	指数表選定	○	実質単年度収支	317,339	781,289	実質公債費比率	9.9	12.0		
		令03.01.01(人)	99,661		1.9	2.3					将来負担比率	42.8	83.0			
		うち日本人(人)	97,689	第2次	9,839	10,292						資金不足比率(※4)				
		増減率(%)	-0.8		22.0	23.8										
		うち日本人(%)	-0.7	第3次	33,943	31,934										
		面積(k㎡)	56.51		76.1	73.9										
人口密度(人/㎢)	1,772															
世帯数(世帯)	43,864															
職員の状況																
特別職等	区分	定数	1人あたり平均給料月額(百円)	一般職員等(※6)	区分	職員数(人)	給料月額(百円)	1人あたり平均給料月額(百円)	地方債現在高	61,866,870	62,555,299					
	市区町村長	1	5,934		一般職員	486	1,616,436	3,326	うち公的資金	39,485,156	39,853,384					
	副市区町村長	2	5,476		うち消防職員	-	-	-	地方債現在高(臨時財政対策債除き)	46,389,543	47,801,611					
	教育長	1	5,214		うち技能労務職員	13	42,302	3,254	債務負担行為額(支出予定額)	24,673,871	24,260,109					
	議会議長	1	5,890		教育公務員	26	78,416	3,016	収益事業収入	233,883	132,222					
	議会副議長	1	5,510		臨時職員	-	-	-	土地開発基金現在高	-	-					
	議会議員	16	5,225		合計	512	1,694,852	3,310	財政調整基金	1,695,999	1,627,949					
									積立金現在高	935,600	2,741					
									減債基金							
									その他特定目的基金	14,297,758	11,563,482					
ラスバイレス指数																
95.2																
一般会計等の一覧																
項番	会計名	項番	会計名	項番	会計名	項番	会計名	項番	組合等名	項番	団体名	(※3)				
(1)	一般会計	(5)	国民健康保険事業特別会計	(8)	水道事業会計			(10)	泉佐野市田尻町清掃施設組合	(17)	泉佐野市土地開発公社					
(2)	公共用地先行取得事業特別会計	(6)	介護保険事業特別会計	(9)	下水道事業会計			(11)	泉州南消防組合	(18)	泉佐野市文化振興財団					
(3)	病院事業債管理特別会計	(7)	後期高齢者医療事業特別会計					(12)	大阪府都市競艇企業団	(19)	泉佐野市ウォーターフロント					
(4)	りんくう公園事業特別会計							(13)	大阪府後期高齢者医療広域連合(一般会計)	(20)	地方独立行政法人りんくう総合医療センター					
								(14)	大阪府後期高齢者医療広域連合(後期高齢者医療特別会計)	(21)	泉佐野電力					
								(15)	大阪広域水道企業団(水道事業会計)	(22)	泉佐野ガス					
								(16)	大阪広域水道企業団(工業用水道事業会計)	(23)	株式会社さのたす					

(注釈) ※1：経常収支比率の()内の数値は、「減収補填債(特例分)」「猶予特例債」及び「臨時財政対策債」を除いて算出したものである。
※2：各会計の一覧は主な会計(10会計まで)を記載している。
※3：地方公共団体が損失補填等を行っている出資法人で、健全化法の算出対象となっている団体については、「地方公社・第三セクター等」の団体名に○印を付与している。
※4：資金不足比率欄には、資金が不足している会計のみ記載している。
※5：産業構造の比率は、分母を就業人口総数とし、分類不能の産業を除いて算出。
※6：個人情報保護の観点から、対象となる職員数が1人又は2人の場合は、「給料月額(百円)」と「1人当たり給料月額(百円)」を「アスタリスク(*)」としている。(その他、数値のない欄については、すべてハイフン(-)としている)。
※7：人口については、調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。
※8：職員の状況については、令和3年地方公務員給与実態調査に基づいている。

(1) 普通会計の状況（市町村）

歳入の状況（単位 千円・％）					地方税の状況（単位 千円・％）				
区分	決算額	構成比	経常一般財源等	構成比	区分	収入済額	構成比	超過課税分	
地方税	19,949,656	28.3	18,282,423	76.1	普通税	18,487,404	92.7	247,427	247,427
地方譲与税	215,871	0.3	215,871	0.9	法定普通税	18,274,031	91.6	247,427	247,427
利子割交付金	13,976	0.0	13,976	0.1	市町村民税	6,604,814	33.1	247,427	247,427
配当割交付金	110,879	0.2	110,879	0.5	個人均等割	169,522	0.8	—	—
株式等譲渡所得割交付金	124,973	0.2	124,973	0.5	所得割	4,775,928	23.9	—	—
分離課税所得割交付金	—	—	—	—	法人均等割	480,876	2.4	80,176	80,176
地方消費税交付金	2,371,182	3.4	2,371,182	9.9	法人税割	1,178,488	5.9	167,251	167,251
ゴルフ場利用税交付金	48,003	0.1	48,003	0.2	固定資産税	10,177,477	51.0	—	—
特別地方消費税交付金	—	—	—	—	うち純固定資産税	9,708,078	48.7	—	—
自動車取得税交付金	—	—	—	—	軽自動車税	274,087	1.4	—	—
軽油引取税交付金	—	—	—	—	市町村たばこ税	1,217,653	6.1	—	—
自動車税環境性能割交付金	34,726	0.0	34,726	0.1	鉱産税	—	—	—	—
法人事業税交付金	309,969	0.4	309,969	1.3	特別土地保有税	—	—	—	—
地方特例交付金等	364,181	0.5	329,043	1.5	法定外普通税	213,373	1.1	—	—
個人住民税減収補填特例交付金	85,707	0.1	85,707	0.4	目的税	1,462,252	7.3	—	—
自動車税減収補填特例交付金	10,255	0.0	10,255	0.0	法定目的税	1,462,252	7.3	—	—
軽自動車税減収補填特例交付金	6,533	0.0	6,533	0.0	入湯税	8,392	0.0	—	—
新型コロナウイルス感染症対策地方税減収補填特別交付金	261,686	0.4	226,548	0.9	事業所税	—	—	—	—
地方交付税	2,445,052	3.5	1,986,442	8.3	都市計画税	1,453,860	7.3	—	—
普通交付税	1,986,442	2.8	1,986,442	8.3	水利地益税等	—	—	—	—
特別交付税	458,610	0.7	—	—	法定外目的税	—	—	—	—
震災復興特別交付税	—	—	—	—	旧法による税	—	—	—	—
（一般財源計）	25,988,468	36.9	23,827,487	99.1	合計	19,949,656	100.0	247,427	247,427
交通安全対策特別交付金	17,119	0.0	17,119	0.1					
分担金・負担金	215,576	0.3	—	—					
使用料	518,067	0.7	137,290	0.6					
手数料	231,772	0.3	—	—					
国庫支出金	12,313,360	17.5	—	—					
国有提供交付金（特別区財調交付金）	—	—	—	—					
都道府県支出金	3,281,908	4.7	—	—					
財産収入	404,613	0.6	6,316	0.0					
寄附金	11,414,458	16.2	—	—					
繰入金	8,850,530	12.6	—	—					
繰越金	514,570	0.7	—	—					
諸収入	2,883,085	4.1	46,632	0.2					
地方債	3,887,400	5.5	—	—					
うち減収補填債（特例分）	—	—	—	—					
うち猶予特例債	—	—	—	—					
うち臨時財政対策債	1,964,800	2.8	—	—					
歳入合計	70,520,926	100.0	24,034,844	100.0					

(注釈)

普通建設事業費の補助事業費には受託事業費のうちの補助事業費を含み、
単独事業費には同級他団体施行事業負担金及び受託事業費のうちの単独事業費を含む。

歳出の状況（単位 千円・％）					
目的別歳出の状況（単位 千円・％）					
区分	決算額 (A)	構成比	(A)のうち普通建設事業費	(A)のうち充当一般財源等	
議会費	268,443	0.4	—	268,443	268,443
総務費	23,706,858	33.8	399,331	5,870,753	5,870,753
民生費	21,846,923	31.2	263,772	8,237,742	8,237,742
衛生費	6,058,666	8.6	38,067	4,224,970	4,224,970
労働費	92,093	0.1	12,590	41,661	41,661
農林水産業費	294,785	0.4	55,489	206,649	206,649
商工費	1,678,959	2.4	100,543	548,758	548,758
土木費	4,748,802	6.8	1,897,261	3,012,446	3,012,446
消防費	1,332,875	1.9	12,603	1,252,054	1,252,054
教育費	5,028,468	7.2	1,190,519	2,578,490	2,578,490
災害復旧費	21	0.0	—	21	21
公債費	5,011,257	7.2	—	4,506,183	4,506,183
諸支出金	—	—	—	—	—
前年度繰上充用金	—	—	—	—	—
歳出合計	70,068,150	100.0	3,970,175	30,748,170	30,748,170

性質別歳出の状況（単位 千円・％）					
区分	決算額	構成比	充当一般財源等	経常経費充当一般財源等	経常収支比率
義務的経費計	25,760,862	36.8	13,201,567	12,817,043	49.3
人件費	6,072,818	8.7	5,338,815	5,097,840	19.6
うち職員給	3,736,769	5.3	3,114,568	—	—
扶助費	14,677,337	20.9	3,356,569	3,213,020	12.4
公債費	5,010,707	7.2	4,506,183	4,506,183	17.3
元利償還金	5,010,284	7.2	4,505,760	4,505,760	17.3
うち元金	4,575,829	6.5	4,091,575	4,091,575	15.7
うち利子	434,455	0.6	414,185	414,185	1.6
一時借入金利子	423	0.0	423	423	0.0
その他の経費	40,337,092	57.6	16,758,620	13,059,157	50.2
物件費	10,966,342	15.7	5,478,980	4,611,917	17.7
維持補修費	114,141	0.2	104,222	104,222	0.4
補助費等	10,499,603	15.0	6,501,454	5,074,851	19.5
うち一部事務組合負担金	2,311,281	3.3	2,311,163	1,922,001	7.4
繰出金	4,039,541	5.8	3,110,255	3,010,478	11.6
積立金	12,524,076	17.9	1,306,020	—	—
投資・出資金・貸付金	2,193,389	3.1	257,689	257,689	1.0
前年度繰上充用金	—	—	—	—	—
投資的経費計	3,970,196	5.7	787,983	—	—
うち人件費	93,285	0.1	93,285	—	—
普通建設事業費	3,970,175	5.7	787,962	—	—
うち補助	1,077,910	1.5	46,345	—	—
うち単独	2,870,291	4.1	737,051	—	—
災害復旧事業費	21	0.0	21	—	—
失業対策事業費	—	—	—	—	—
歳出合計	70,068,150	100.0	30,748,170	—	—

(2)各会計、関係団体の財政状況及び健全化判断比率（市町村）

令和3年度大阪府泉佐野市

一般会計等の財政状況(単位:百万円)

	会計名	歳入	歳出	形式収支	実質収支	他会計等からの繰入金	地方債現在高	備考
1	一般会計	69,923	69,470	453	385	447	52,810	
2	公共用地先行取得事業特別会計	979	979	-	-	214	2,948	
3	病院事業債管理特別会計	1,872	1,872	-	-	-	11,365	
4	りんくう公園事業特別会計	201	201	-	-	87	59	
5								
6								
7								
8								
9								
10								
11								
12								
13								
14								
15								
16								
17								実質赤字額
18	一般会計等(純計)	71,654	71,201	453	385		67,182	-

※一般会計等(純計)は、各会計の相互間の繰入・繰出等の重複を控除したものであり、各会計の合計と一致しない場合がある。

公営企業会計等の財政状況(単位:百万円)

	会計名	総収益(歳入)	総費用(歳出)	純損益(形式収支)	資金剰余額/不足額(実質収支)	他会計等からの繰入金	企業債(地方債)現在高	左のうち一般会計等繰入見込額	資金不足比率	備考
1	国民健康保険事業特別会計	11,395	10,709	686	686	1,080	-	-	-	
2	介護保険事業特別会計	9,586	9,318	268	268	1,446	-	-	-	
3	後期高齢者医療事業特別会計	1,327	1,319	8	8	301	-	-	-	
4	水道事業会計	2,652	2,507	145	503	4	7,363	7	-	法適用企業
5	下水道事業会計	4,146	3,687	459	750	1,218	23,934	12,781	-	法適用企業
6										
7										
8										
9										
10										
11										
12										
13										
14										
15										
16										
17										
18										
19										
20										
21										
22										
23										
24										
25										
26										
27										
28										
29										
30										
31										
32										
33										
34										
35										連結実質赤字額
36	公営企業会計等				2,214		31,297	12,788		-

関係する一部事務組合等の財政状況(単位:百万円)

	一部事務組合等名	総収益(歳入)	総費用(歳出)	純損益(形式収支)	資金剰余額/不足額(実質収支)	他会計等からの繰入金	企業債(地方債)現在高	左のうち一般会計等負担見込額	備考
1	泉佐野市田尻町清掃施設組合	1,467	1,467	-	-	-	-	-	
2	泉州南消防組合	3,870	3,870	-	-	-	1,659	519	
3	大阪府都市競艇企業団	79,983	73,989	5,994	14,309	-	-	-	
4	大阪府後期高齢者医療広域連合(一般会計)	219	195	24	24	-	-	-	
5	大阪府後期高齢者医療広域連合(後期高齢者医療特別会計)	1,282,575	1,237,829	44,746	44,746	8,500	-	-	
6	大阪広域水道企業団(水道事業会計)	39,340	34,648	4,692	22,986	-	103,547	-	
7	大阪広域水道企業団(工業用水道事業会計)	8,419	5,771	2,648	21,829	-	18,228	-	
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
21									
22									
23									
24									
25									
26									
27									
28									
29									
30									
31									
32									
33									
34									
35									
36	一部事務組合等				103,894		123,434	519	

地方公社・第三セクター等の経営状況及び地方公共団体の財政的支援の状況(単位:百万円)

	地方公社・第三セクター等名	経常損益	純資産又は正味財産	当該団体からの出資金	当該団体からの補助金	当該団体からの貸付金	当該団体からの債務保証に係る債務残高	当該団体からの損失補償に係る債務残高	一般会計等負担見込額	備考
1	泉佐野市土地開発公社	1	386	5	-	-	1,206	-	1,209	
2	泉佐野市文化振興財団	345	56	3	-	-	-	-	-	
3	泉佐野市ウォーターフロント	65	730	122	-	-	-	-	-	
4	地方独立行政法人りんくう総合医療センター	1,874	1,283	157	1,289	12,265	-	-	-	
5	泉佐野電力	6	88	2	-	-	-	-	-	
6	泉佐野ガス	-	5	3	-	-	-	-	-	
7	株式会社さのたす	14	23	5	-	-	-	-	-	
8										
9										
10										
11										
12										
13										
14										
15										
16										
17										
18										
19										
20										
21										
22										
23										
24										
25										
26										
27										
28										
29										
30										
31										
32										
33										
34										
35										
36										
37										
38										
39										
40										
41										
42										
43										
44										
45										
46										
47										
48										
49										
50										
51										
52										
53										
54										
55										
56										
57										
58										
59										
60										
61										
62										
63										
64										
65										
66										
67										
68										
69										
70										
71										
72										
73										
74										
75										
76										
77										
78										
79										
80										
81										
82										
83	地方公社・第三セクター等			297	1,289	12,265	1,206	-	1,209	

※地方公共団体が①25%以上出資している法人又は②財政支援を行っている法人を記載している。
※地方公共団体財政健全化法に基づき将来負担比率の算定対象となっている法人については、○印を付与している。

公債費負担の状況

実質公債費比率（千円・％）						
区分		令和元年度	令和2年度	令和3年度	分母比	
元利償還金		6,340,542	6,262,085	6,138,540	29.0	
減価基金積立不足算定額		—	—	—	—	
準元利償還金	満期一括償還地方債に係る年度割相当額	—	—	—	—	
	公営企業債の元利償還金口に対する繰入金	1,378,352	1,155,063	1,001,816	4.7	
	組合等が起こした地方債の元利償還金に対する負担金等	84,137	77,154	88,691	0.4	
	債務負担行為に基づく支出額（公債費に準ずるもの）	31,492	31,439	31,777	0.2	
	一時借入金の利子	—	445	—	—	
合計		(A) 7,834,523	7,526,186	7,260,824		
内訳		令和元年度	令和2年度	令和3年度	分母比	
債務負担行為	PFI事業に係るもの	22,596	22,597	22,597	0.1	
	いわゆる五省協定等に係るもの	—	—	—	—	
	国営土地改良事業・森林総合研究所等が行う事業に係るもの	—	—	—	—	
	地方公務員等共済組合に係るもの	—	—	—	—	
	社会福祉法人の施設建設費に係るもの	—	—	—	—	
	損失補償・債務保証の履行に係るもの	—	—	—	—	
	引き受けた債務の履行に係るもの	—	—	—	—	
	その他上記に準ずるもの	8,896	8,842	9,180	0.0	
	利子補給に係るもの	—	—	—	—	
	特定財源の額	(B) 2,297,018	2,181,243	2,188,146		
標準財政規模	(C) 23,272,374	23,556,856	24,512,912			
算入公債費等の額	(D) 3,241,299	3,288,828	3,360,132			
	(C)－(D) 20,031,075	20,268,028	21,152,780			
実質公債費比率	(単年度)	11.5	10.1	8.1		
$((A)-(B)+(D)) / ((C)-(D)) \times 100$		(3ヵ年平均)	13.5	12.0	9.9	

将来負担の状況

将来負担比率（千円・％）											
区分		令和元年度	令和2年度	令和3年度	分母比	内訳		令和元年度	令和2年度	令和3年度	分母比
将来負担額	一般会計等に係る地方債の現在高	70,320,374	68,842,207	67,181,527	317.6	債務負担行為	PFI事業に係るもの	43,601	22,596	22,597	0.1
	債務負担行為に基づく支出予定額	140,845	111,977	103,731	0.5		いわゆる五省協定等に係るもの	-	-	-	-
	公営企業債等繰入見込額	16,873,032	14,566,656	12,788,379	60.5		国営土地改良事業に係るもの	-	-	-	-
	組合等負担等見込額	616,231	574,029	518,596	2.5		森林総合研究所等が行う事業に係るもの	-	-	-	-
	退職手当負担見込額	5,214,076	5,259,293	5,073,824	24.0		地方公務員等共済組合に係るもの	-	-	-	-
	設立法人等の負債額等負担見込額	3,445,958	2,366,252	1,208,599	5.7		依頼土地の買い戻しに係るもの	-	-	-	-
	うち、健全化法施行規則附則第三条に係る負担見込額	-	-	-	-		社会福祉法人の施設建設費に係るもの	-	-	-	-
	連結実質赤字額	-	-	-	-		損失補償・債務保証の履行に係るもの	-	-	-	-
	組合等連結実質赤字額負担見込額	-	-	-	-		引き受けた債務の履行に係るもの	-	-	-	-
	合計	(E)	96,610,516	91,720,414	86,874,656			その他上記に準ずるもの	97,244	89,381	81,134
充当可能財源等	充当可能基金	19,219,942	14,410,452	18,425,456	87.1	企業債等繰入見込額	下水道事業会計	-	14,566,656	12,781,016	60.4
	充当可能特定繰入	21,171,843	21,367,778	20,528,729	97.0		水道事業会計	-	-	7,363	0.0
	基準財政需要額算入見込額	40,326,824	39,118,555	38,857,674	183.7		介護保険事業特別会計	-	-	-	-
	合計	(F)	80,718,609	74,896,785	77,811,859			後期高齢者医療事業特別会計	-	-	-
将来負担比率((E)-(F))／((C)-(D))×100		79.3	83.0	42.8		その他の会計	16,873,032	-	-	-	-
健全化判断比率	令和3年度	早期健全化比率	財政再生比率	公社・三セク等	地方道路公社に係る将来負担額	-	-	-	-	-	
	実質赤字比率	-	12.12		20.00	土地開発公社に係る将来負担額	1,993,523	1,593,480	1,208,599	5.7	
	連結実質赤字比率	-	17.12		30.00	地方独立行政法人に係る将来負担額	1,452,435	772,772	-	-	
	実質公債費比率	9.9	25.0		35.0	その他第三セクター等に係る将来負担額	-	-	-	-	
	将来負担比率	42.8	350.0								

(3) 市町村財政比較分析表(普通会計決算)

令和3年度

大阪府泉佐野市

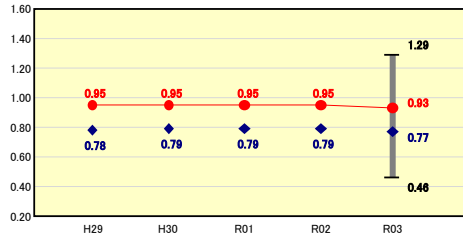
人	口	98,840	人(R4.1.1現在)						
うち日本人		96,986	人(R4.1.1現在)						
面積		56.51	km ²						
歳入総額		70,520,926	千円	実 質 赤 字 比 率	-	%			
歳出総額		70,068,150	千円	通 結 実 質 赤 字 比 率	-	%			
実質収支		385,001	千円	実 質 公 債 費 比 率	9.9	%			
標準財政規模		24,512,912	千円	市 町 村 類 型	H29 Ⅲ-3	H30 Ⅲ-3	R01 Ⅲ-3	Ⅲ-3	
地方債現在高		61,866,870	千円	(年 度 毎)	R02 Ⅲ-3	R03 Ⅲ-3			

※市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
※令和4年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率及び将来負担比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。
※充当可能財源等が将来負担額を上回っている団体については、将来負担比率のグラフを表記しない。

※「人件費・物件費等の状況」の決算額は、人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし、人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。
※人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。
※類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和3年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。
※「定員管理の状況」の「人口1,000人当たり職員数」の算出に用いる職員数及び「給与水準(国との比較)」の「ラスパイレス指数」については、各調査対象年度の翌年の地方公務員給与実態調査に基づいているが、令和3年度は令和3年調査の数値を引用している。

財政力

財政力指数 [0.93]



類似団体内順位 13/82

全国平均 0.50

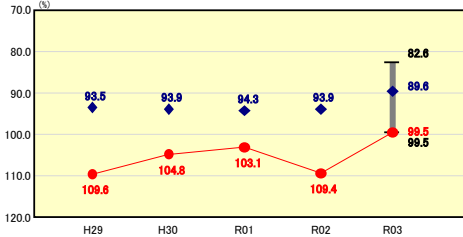
大阪府平均 0.70

財政力指数の分析欄

関西国際空港(以下「空港」)の関連事業所等からの固定資産税等により類似団体平均を上回る税収があるため、0.93となっており、近年ほぼ横ばいで推移している。

財政構造の弾力性

経常収支比率 [99.5%]



類似団体内順位 62/82

全国平均 88.9

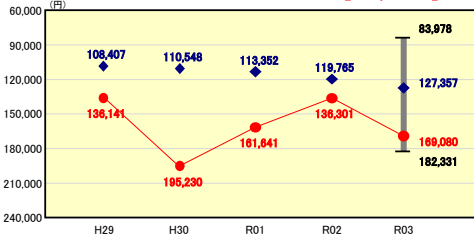
大阪府平均 89.3

経常収支比率の分析欄

経常収支比率は99.5%と類似団体平均を上回っている。歳出面では、公債費が著しく高い水準となっており、前年度の繰上償還などにより減となったものの、空港関連の都市基盤整備等を進め、その財源に地方債を活用した影響で、依然高い水準となっている。一方歳入面では、減収補てん債で減となったものの、市税、地方交付税、地方特例交付金、地方消費税交付金、臨時財政対策債でそれぞれ増となったことから、全体の金額としては増加した。このことから、経常収支比率は前年度と比べ、9.9ポイント減少した。
今後も、令和元年12月に策定した中期財政運営方針(令和2～6年度)に基づき、地方債の繰上償還や遊休土地の積極的な売却など、今後も健全な財政運営に努め、財

人件費・物件費等の状況

人口1人当たり人件費・物件費等決算額 [169,080円]



類似団体内順位 61/82

全国平均 155,088

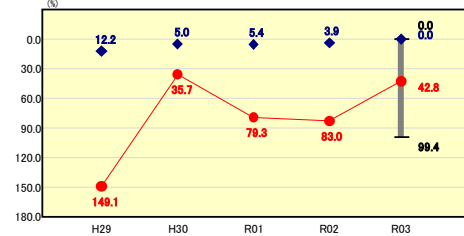
大阪府平均 142,758

人口1人当たり人件費・物件費等決算額の分析欄

類似団体平均に比べ高くなっているのは、主に物件費を要因としており、各種業務の委託料、ふるさと応援寄附金に係る経費等が増加したためである。今後も中期財政運営方針及び定員適正化計画等に基づき、事務の委託化による人件費と物件費の精査に努める。

将来負担の状況

将来負担比率 [42.8%]



類似団体内順位 57/82

全国平均 15.4

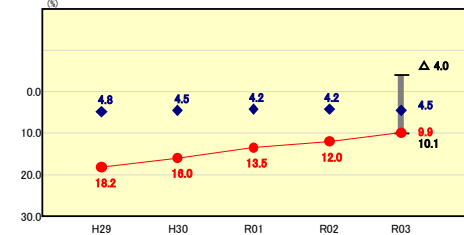
大阪府平均 0.0

将来負担比率の分析欄

類似団体平均を上回っており、主な要因としては、空港関連の都市基盤整備等を進め、その財源に地方債を活用した影響で、一般会計等の地方債現在高が標準財政規模の約2.74倍の672億円となっていること、また、空港対岸の「りんくうタウン」の造成に関して、公費負担となる雨水整備を最優先で進めたため、公営企業債等繰出見込額が128億円となっていることがあげられる。今後も公債費等義務的経費の削減を中心とする行財政改革を進め、財政の健全化に努める。

公債費負担の状況

実質公債費比率 [9.9%]



類似団体内順位 61/82

全国平均 5.5

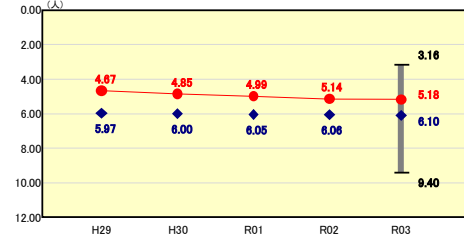
大阪府平均 2.9

実質公債費比率の分析欄

空港関連の都市基盤整備等を進め、その財源に地方債を活用した影響で、類似団体と比べて公債費の負担が重くなっている。
令和3年度は、臨時財政対策債を前年度より12億円増となる19億円新規発行したものの、全体の元金償還額が発行額を上回り、実質公債費比率は2.1ポイント改善した。今後も中期財政運営方針に基づき、計画的な地方債の発行を行うことで、公債費の抑制に努める。

定員管理の状況

人口1,000人当たり職員数 [5.18人]



類似団体内順位 14/82

全国平均 8.21

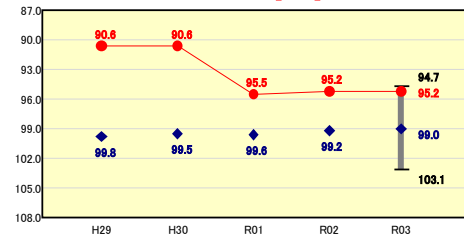
大阪府平均 8.52

人口1,000人当たり職員数の分析欄

空港関連の都市基盤整備等の事業推進や空港を管轄する消防業務のために必要な人員を確保したことにより、類似団体内平均値と比較して高い水準となっていたが、消防事務を一部事務組合(泉州南消防組合)へ移管した平成24年度から同平均値と比較して低い水準となった。
令和3年度は、概ね前年度並みで推移しており、今後も中期財政運営方針及び定員適正化計画等に基づき、より適正な定員管理に努める。

給与水準(国との比較)

ラスパイレス指数 [95.2]



類似団体内順位 4/82

全国平均 98.8

大阪府平均 96.3

ラスパイレス指数の分析欄

行財政改革推進計画に基づき、平成13年1月から24ヶ月昇給延伸を行ったこと及び平成23年度より給与カット等を行ってきた。平成27年4月1日から段階的に削減率を緩和したことで上昇したものの、令和3年度は前年度と同値である。依然として類似団体平均を大きく下回る低水準にある。

(4)-1 市町村経常経費分析表(普通会計決算)

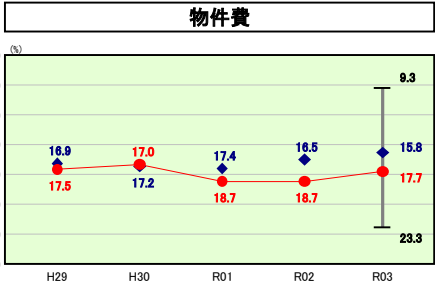
令和3年度

大阪府泉佐野市

経常収支比率の分析

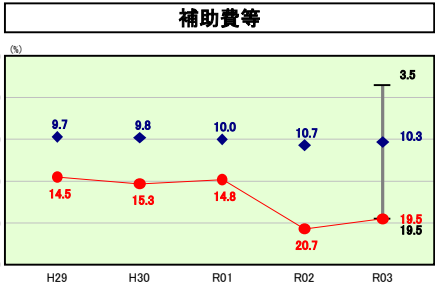
人口	98,840	人(R4.1.1現在)		実質赤字比率	-	%
うち日本人	96,986	人(R4.1.1現在)		連結実質赤字比率	-	%
面積	56.51	km ²		実質公債費比率	9.9	%
歳入総額	70,520,926	千円		将来負担比率	42.8	%
歳出総額	70,068,150	千円		市町村類型	H29 Ⅲ-3 H30 Ⅲ-3 R01 Ⅲ-3 R02 Ⅲ-3 R03 Ⅲ-3	
実質収支	385,001	千円		(年度毎)		
標準財政規模	24,512,912	千円				
地方債現在高	61,866,870	千円				

※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。
※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和3年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。



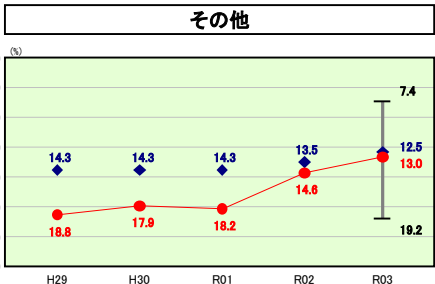
類似団体内順位 44/62 全国平均 13.8 大阪府平均 12.2

物件費の分析欄
令和3年度は、母分の歳入全体の改善が大きく、前年度と比べて1.0ポイント減少したが、依然類似団体平均より高い水準である。主な要因としては、窓口業務の委託化などによる増加があげられる。新たに発生する委託料については特に注意を払いながら、物件費全体の精査に努める。



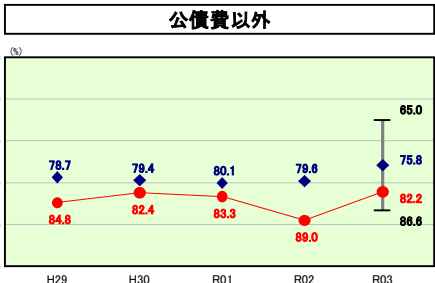
類似団体内順位 62/62 全国平均 10.2 大阪府平均 9.1

補助費等の分析欄
補助費等に係る経常収支比率が類似団体平均を上回っているのは、泉州南消防組合、泉佐野市田尻町清掃施設組合及び地方独立行政法人りんくう総合医療センターへの負担金などが多額になっているためである。引き続きそれぞれ自立的・効率的な経営に努めるが、これらを含めた補助費等全体の精査に努める。



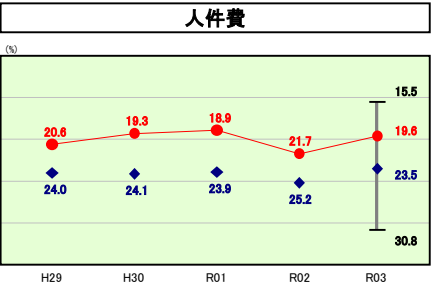
類似団体内順位 38/62 全国平均 12.0 大阪府平均 12.1

その他の分析欄
類似団体平均と比較高い水準となっているものの、前年度と比べて1.6ポイント改善している。これは、下水道事業会計への出資金が減少したことなどによるものである。



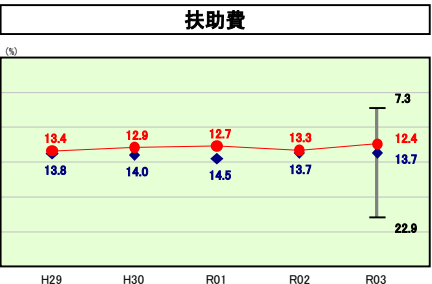
類似団体内順位 56/62 全国平均 73.2 大阪府平均 75.0

公債費以外の分析欄
公債費以外に係る経常収支比率は、令和3年度は母分の歳入全体の改善などにより、6.8ポイント減少した。構成比は高い方から順に人件費、補助費等、物件費、公債費、扶助費、構成比において高い割合を占める各費目について、人件費、扶助費以外は類似団体平均より高くなっているため、注意して比率の改善に努める。



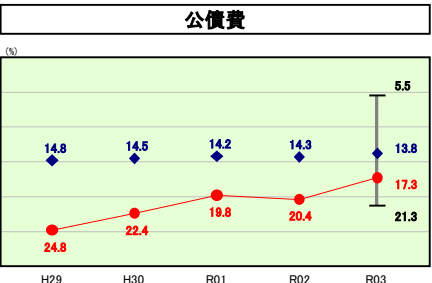
類似団体内順位 10/62 全国平均 25.2 大阪府平均 25.3

人件費の分析欄
令和2年度の会計年度任用職員制度の開始に伴い、令和3年度においても実質職員給全体が増加となったものの、母分の歳入全体の改善が大きく、前年度と比べて2.1ポイント減少した。人員適正化等の取組により類似団体平均を下回っている。今後も中期財政運営方針及び定員適正化計画等に基づき、人件費の適正化に努める。



類似団体内順位 25/62 全国平均 12.0 大阪府平均 16.3

扶助費の分析欄
障害者福祉に係る扶助費などが増加したものの、母分の歳入全体の改善が大きく、前年度と比べて0.9ポイント減少した。類似団体平均を若干下回る水準であるが、各種扶助費の支給については、今後も増加すると見込まれるため、適正化に努めていく。



類似団体内順位 53/62 全国平均 15.7 大阪府平均 14.3

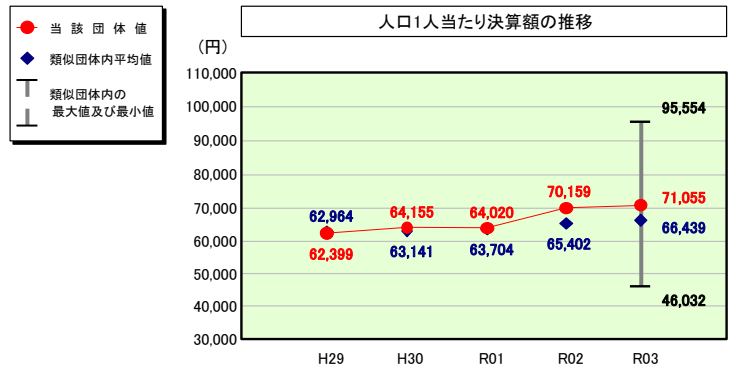
公債費の分析欄
空港関連の都市基盤整備等を積極的に進め、その財源に地方債を活用した影響で、地方債の元利償還金が膨らんでおり、公債費に係る経常収支比率は類似団体平均を3.5ポイント上回っている。今後も中期財政運営方針に基づき、計画的な地方債の発行を行うことで、公債費の抑制に努める。

(4)-2 市町村経常経費分析表(普通会計決算)

令和3年度

大阪府泉佐野市

人件費及び人件費に準ずる費用の分析



(注) 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。

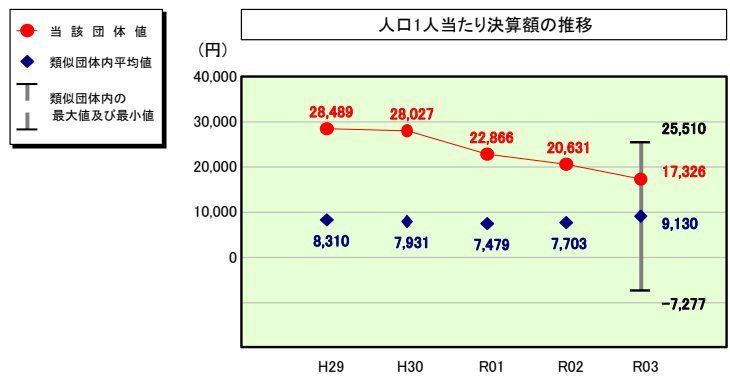
人件費及び人件費に準ずる費用

	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額		
		当該団体 (円)	類似団体平均 (円)	対比 (%)
人件費	6,072,818	61,441	62,021	▲ 0.9
一部事務組合負担金(補助費等)	1,058,621	10,710	4,339	146.8
公営企業(法適)等に対する繰出し(補助費等)	14,632	148	554	▲ 73.3
公営企業(法適)等に対する繰出し(投資及び出資金・貸付金)	-	-	17	-
公営企業(法非適)等に対する繰出し(繰出金)	318,473	3,222	2,525	27.6
事業費支弁に係る職員の人件費(投資的経費)	93,285	944	1,158	▲ 18.5
▲退職金	▲ 534,711	▲ 5,410	▲ 4,174	29.6
合計	7,023,118	71,055	66,439	6.9

参考

	当該団体	類似団体平均	対比(差引)
人口1,000人当たり職員数(人)	5.18	6.10	▲ 0.92
ラスパイレース指数	95.2	99.0	▲ 3.8

公債費及び公債費に準ずる費用の分析

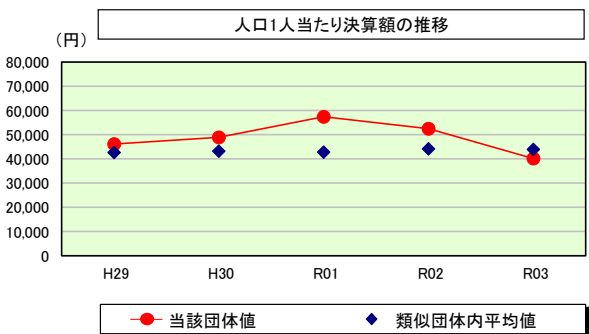


公債費及び公債費に準ずる費用(実質公債費比率の構成要素)

	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額		
		当該団体 (円)	類似団体平均 (円)	対比 (%)
元利償還金の額 (繰上償還額等を除く)	6,138,540	62,106	33,147	87.4
積立不足額を考慮して算定した額	-	-	7	-
満期一括償還地方債の一年当たりの元金償還金に相当するもの (年度割相当額)	-	-	24	-
公営企業に要する経費の財源とする地方債の償還の財源に 充てたと認められる繰入金	1,001,816	10,136	5,872	72.6
一部事務組合等の起こした地方債に充てたと認められる 補助金又は負担金	88,691	897	1,168	▲ 23.2
公債費に準ずる債務負担行為に係るもの	31,777	321	720	▲ 55.4
一時借入金利子 (同一団体における会計間の現金運用に係る利子は除く)	-	-	1	-
▲特定財源の額	▲ 2,188,146	▲ 22,138	▲ 6,245	254.5
▲地方債に係る元利償還金及び準元利償還金に要する経費として 普通交付税の額の算定に用いる基準財政需要額に算入された額	▲ 3,360,132	▲ 33,996	▲ 25,563	33.0
合計	1,712,546	17,326	9,130	89.8

※令和4年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(参考) 普通建設事業費の分析



普通建設事業費

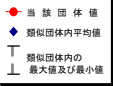
	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額				
		当該団体(円)	増減率(%) (A)	類似団体平均(円)	増減率(%) (B)	(A)-(B)
H29	4,651,041	46,169	63.9	42,651	4.3	59.6
	うち単独分	3,974,016	49.4	22,675	▲ 5.9	55.3
H30	4,924,413	48,901	5.9	43,226	1.3	4.6
	うち単独分	3,973,897	0.0	22,622	▲ 0.2	0.2
R01	5,766,603	57,425	17.4	42,836	▲ 0.9	18.3
	うち単独分	4,905,789	23.8	22,936	1.4	22.4
R02	5,230,251	52,480	▲ 8.6	44,161	3.1	▲ 11.7
	うち単独分	3,214,017	▲ 34.0	23,644	3.1	▲ 37.1
R03	3,970,175	40,168	▲ 23.5	43,955	▲ 0.5	▲ 23.0
	うち単独分	2,870,291	▲ 10.0	21,318	▲ 9.8	▲ 0.2
過去5年間平均	4,908,497	49,029	11.0	43,366	▲ 1.5	9.5
	うち単独分	3,787,602	5.8	22,639	▲ 2.3	8.1

(5)市町村性質別歳出決算分析表(住民一人当たりのコスト)

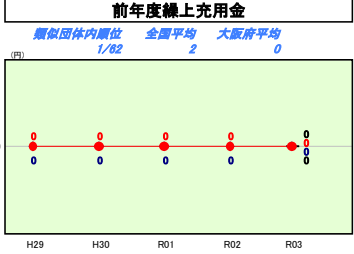
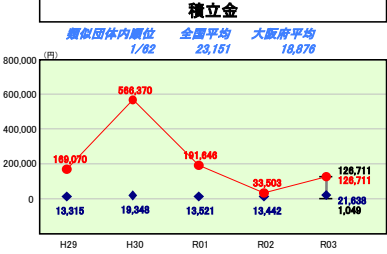
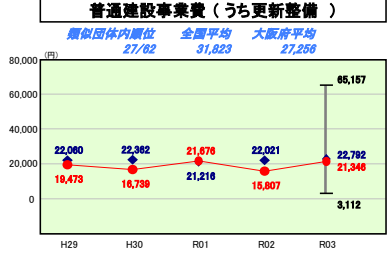
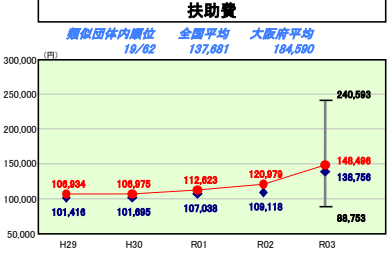
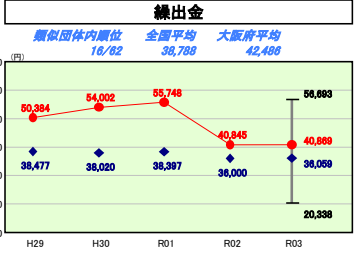
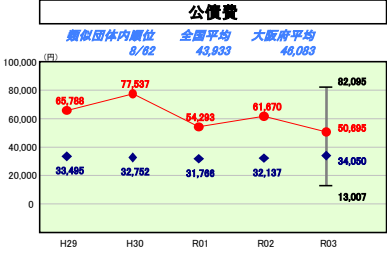
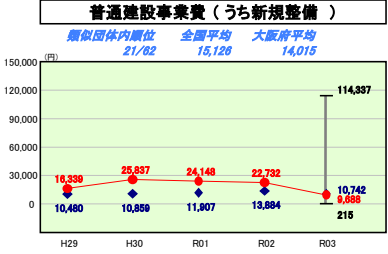
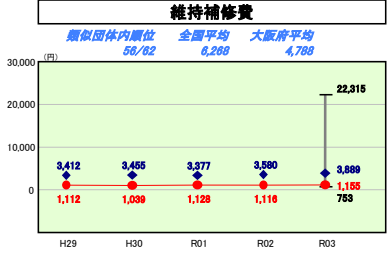
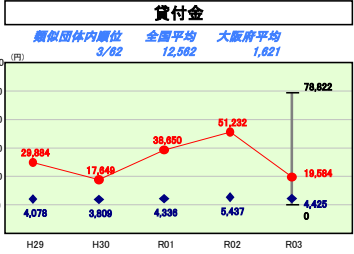
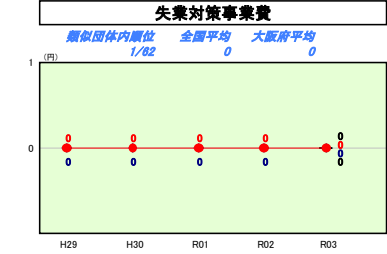
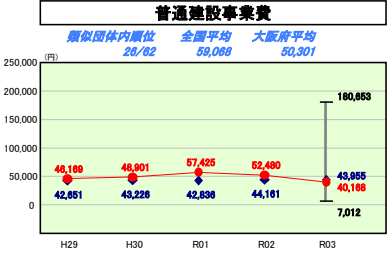
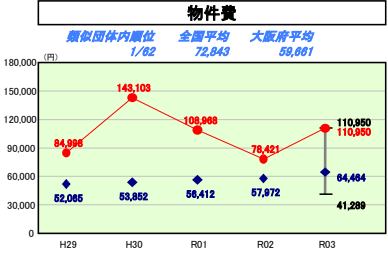
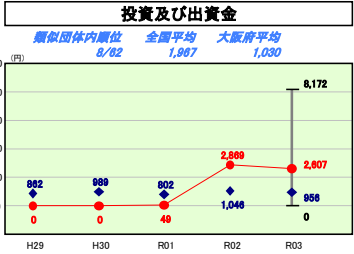
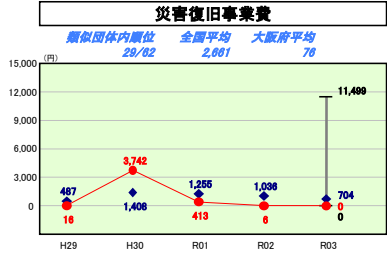
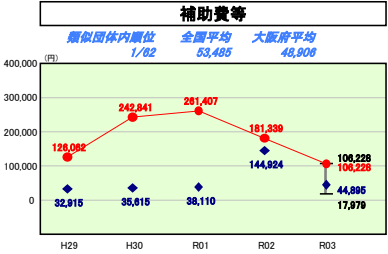
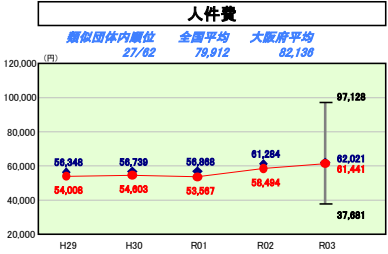
令和3年度

大阪府泉佐野市

人口	98,840人(R4.1.1現在)	実質赤字比率	-%
うち日本人	96,986人(R4.1.1現在)	連結実質赤字比率	-%
面積	56.51km ²	実質公債費比率	9.9%
歳入総額	70,620,926千円	将来負担比率	42.8%
歳出総額	70,068,150千円	市町村類型	H29 Ⅲ-3 H30 Ⅲ-3 R01 Ⅲ-3
実質収支	385,001千円	(年度毎)	R02 Ⅲ-3 R03 Ⅲ-3
標準財政規模	24,512,912千円		
地方債現在高	61,866,870千円		



※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。
※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和3年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。



性質別歳出の分析値

歳出決算総額は、住民一人当たり708,905円となっている。主な構成項目である物件費は、住民一人当たり110,950円となっており、平成29年度から70,000円を超える高い水準で推移している。さらに、前年度から比較すると41%増加していることから類似団体平均と比べて高い水準にある。各種業務の委託料及びふるさと応援寄附金に係る経費が増加したことが主な要因である。

(6)市町村目的別歳出決算分析表(住民一人当たりのコスト)

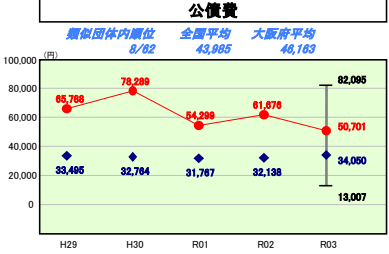
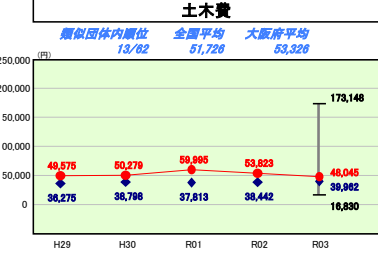
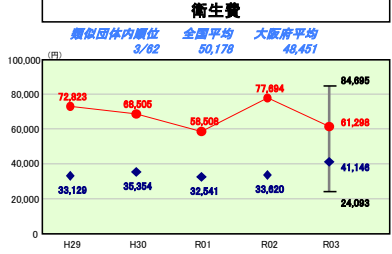
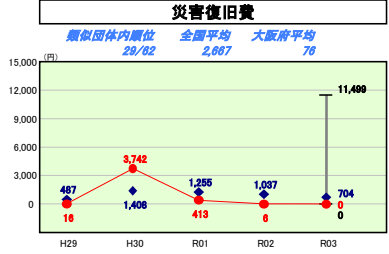
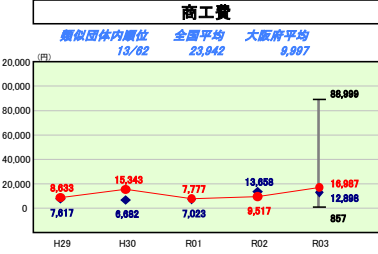
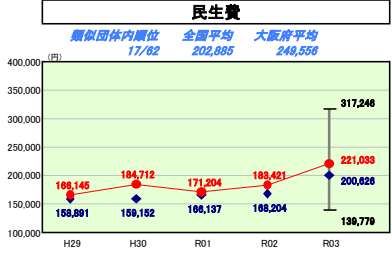
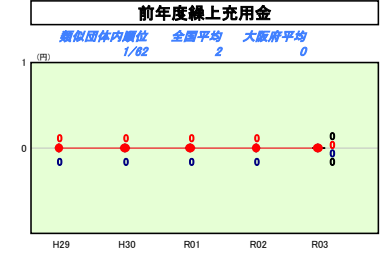
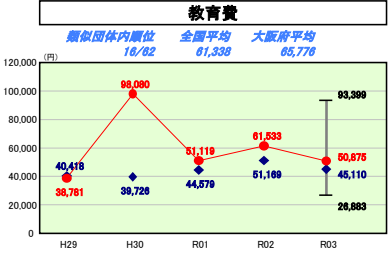
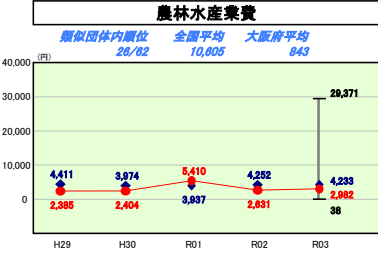
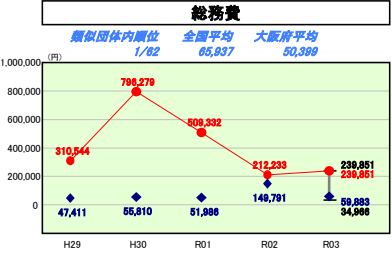
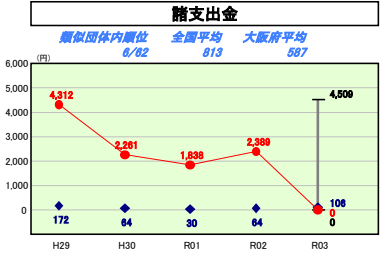
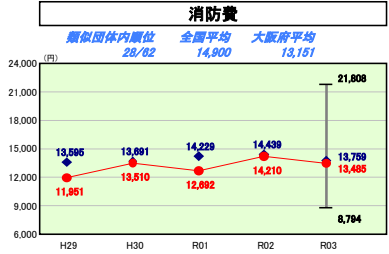
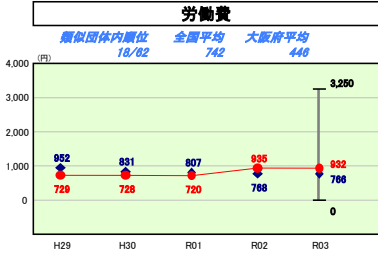
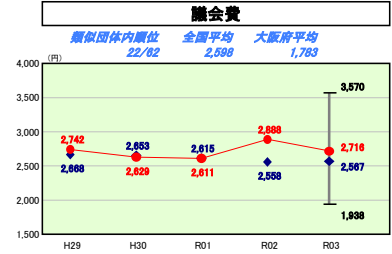
令和3年度

大阪府泉佐野市

人口	98,840人(R4.1.1現在)	実質赤字比率	-%
うち日本人	96,986人(R4.1.1現在)	連結実質赤字比率	-%
面積	56.51km ²	実質公債費比率	9.9%
歳入総額	70,620,926千円	将来負担比率	42.8%
歳出総額	70,068,150千円	市町村類型	H29 Ⅲ-3 H30 Ⅲ-3 R01 Ⅲ-3
実質収支	385,001千円	(年度毎)	R02 Ⅲ-3 R03 Ⅲ-3
標準財政規模	24,512,912千円		
地方債現在高	61,866,870千円		



※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。
※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和3年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。



目的別歳出の分析概

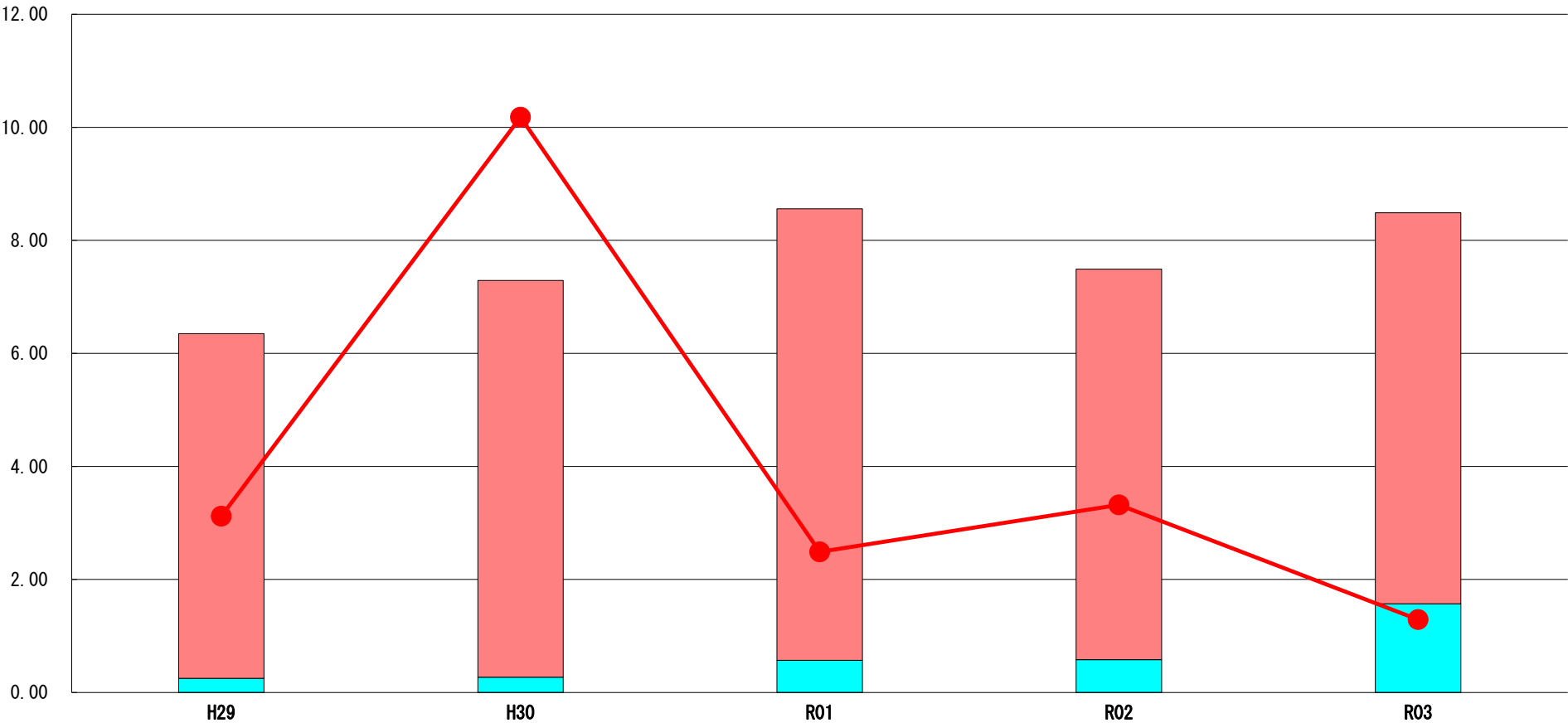
総務費は、住民一人当たり239,851円となっている。類似団体平均と比べ高止まりしているのは、主にふるさと応援寄附金事業に係る経費の増によるものである。前年度と比べ、住民一人当たり27,618円増加し、類似団体平均を大きく上回っている。

(7) 実質収支比率等に係る経年分析（市町村）

令和3年度

大阪府泉佐野市

標準財政規模比（％）



標準財政規模比（％）

区分	年度	H29	H30	R01	R02	R03
財政調整基金残高		6.10	7.02	7.99	6.91	6.92
実質収支額		0.25	0.27	0.57	0.58	1.57
実質単年度収支		3.12	10.18	2.49	3.32	1.29

分析欄

財政調整基金残高は、適切な財源の確保と歳出の精査により、取崩しを回避しており、前年度とほぼ同額を維持している。

また、特別職の給与カット、事業の見直しや中止などによる歳出削減のほか、遊休土地の積極的な売却、ふるさと納税の推進、空港連絡橋利用税の徴収、ネーミングライツなどの歳入確保に努めたことにより、前年度と比較し、実質収支額が約2.5億円の増、標準財政規模に占める割合では0.99ポイントの増となった。一方で、実質単年度収支の標準財政規模に占める割合では、繰上償還額及び積立金取崩し額が皆減となったことなどから、2.03ポイントの減となっている。

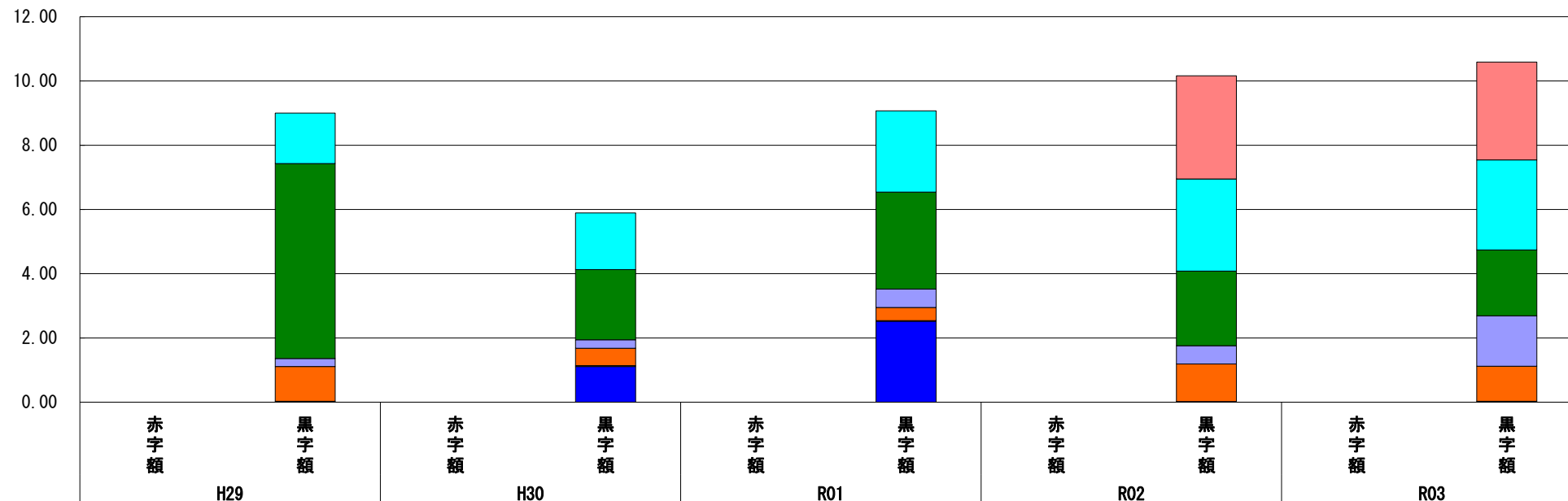
今後も令和元年度12月に策定した、中期財政運営方針に基づき、計画的に安定した財政運営を行っていく。

(8) 連結実質赤字比率に係る赤字・黒字の構成分析（市町村）

令和3年度

大阪府泉佐野市

標準財政規模比（％）



標準財政規模比（％）

会計	年度	H29	H30	R01	R02	R03
下水道事業会計		-	-	-	3.21	3.05
国民健康保険事業特別会計		1.57	1.76	2.53	2.87	2.80
水道事業会計		6.07	2.19	3.02	2.32	2.05
一般会計		0.25	0.26	0.57	0.57	1.57
介護保険事業特別会計		1.08	0.54	0.41	1.17	1.09
後期高齢者医療事業特別会計		0.03	0.03	0.02	0.02	0.03
公共用地先行取得事業特別会計		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
病院事業債管理特別会計		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
その他会計（赤字）		-	-	-	-	-
その他会計（黒字）		0.00	1.11	2.52	0.00	0.00

分析欄

平成21年4月1日に施行された財政健全化法に基づく健全化判断比率において、本市は平成20年度決算における連結実質赤字比率が26.42%（早期健全化基準17.44%）と早期健全化基準以上となった。

本市は、財政健全化法施行前の地方財政再建促進特別措置法に規定する財政再建準用団体に陥らないよう普通会計の収支改善を最優先に取り組んできた結果、平成18年度に普通会計において実質収支の黒字転換を達成したが、特別会計等の根本的な改善措置を講じるまでは至っていないかった。

そのような状況下、財政健全化法において、新たに設けられた連結実質赤字比率では、宅地造成事業会計における資金不足額約66億円により、連結実質赤字比率が早期健全化基準以上となったものである。また、同会計の資金不足は現病院（りんくうタウン）建設の財源として、旧病院跡地（上町）の売却収入を充てることとし、将来の公共施設等の整備のために宅地造成事業に売却したものであるが、景気低迷による事業計画の頓挫などにより、その間の金利負担の累積と地価下落による売却差損の発生で生じたものである。

なお、同会計は既に役割を終えていることから、平成21年度に第三セクター等改革推進債を活用して、これを廃止し、一般会計の負債として引継ぐことで同年度の決算で連結実質赤字額を解消した。

平成22年度及び平成23年決算では、一般会計で赤字額が生じたものの、連結実質赤字額は生じておらず、平成25年度決算で早期健全化団体から脱却した。

令和3年度決算は、特別職の給与カット、事業の見直しや中止などによる歳出削減のほか、遊休土地の積極的な売却、ふるさと納税の推進、空港連絡橋利用税の徴収、ネーミングライツなどの歳入確保に努めたことにより、普通会計の実質収支額は引き続き黒字となっている。

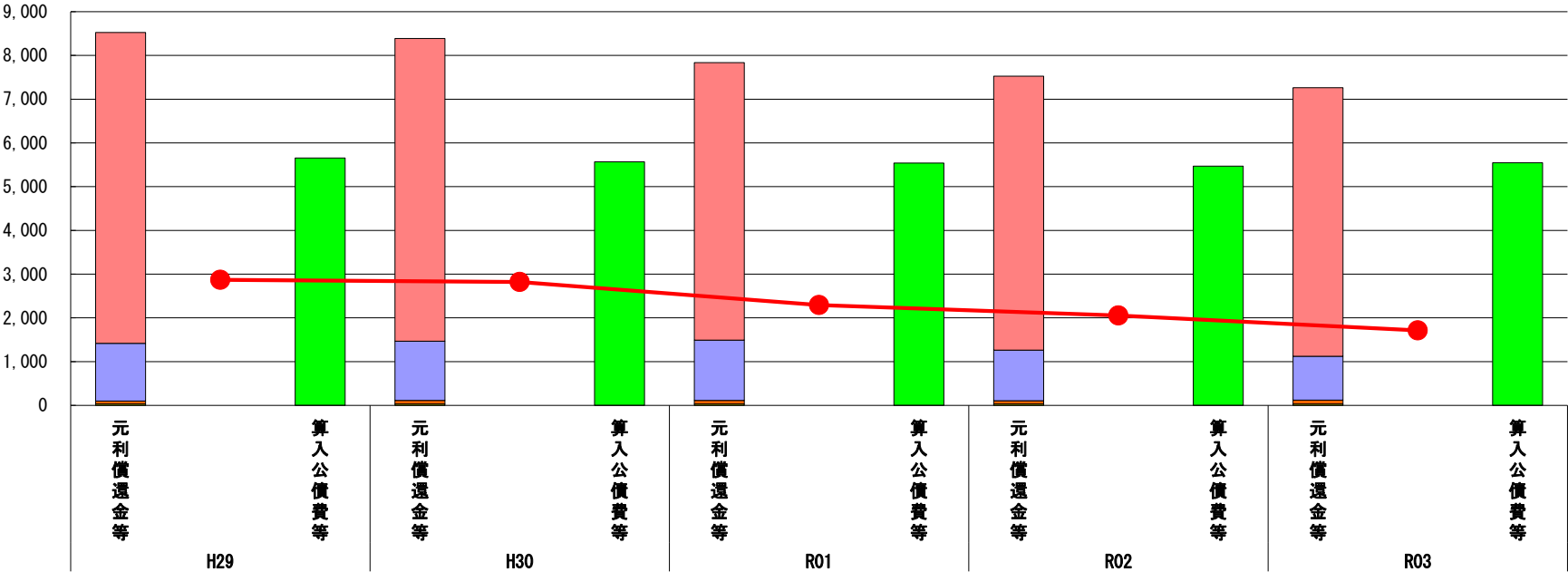
※令和4年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく連結実質赤字比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(9) 実質公債費比率（分子）の構造（市町村）

令和3年度

大阪府泉佐野市

(百万円)



(百万円)

分子の構造		年度	H29	H30	R01	R02	R03
元利償還金等 (A)	元利償還金		7,107	6,922	6,341	6,262	6,139
	減債基金積立不足算定額※2		-	-	-	-	-
	満期一括償還地方債に係る年度割相当額		-	-	-	-	-
	公営企業債の元利償還金に対する繰入金		1,320	1,352	1,378	1,155	1,002
	組合等が起こした地方債の元利償還金に対する負担金等		67	84	84	77	89
	債務負担行為に基づく支出額		31	31	31	31	32
	一時借入金の利子		0	-	-	0	-
算入公債費等 (B)			5,655	5,567	5,539	5,470	5,548
(A) - (B)		実質公債費比率の分子	2,870	2,822	2,295	2,055	1,714

分析欄

空港開港に合わせ、遅れていた都市基盤整備を進め、その財源に地方債を活用したことにより元利償還金等の額が非常に大きい。これは、総合文化センターの建設及び空港対岸の「りんくうタウン」の造成に関して雨水整備を最優先で進めたことにより公営企業債（下水道事業会計）の元利償還金に対する繰入金が多額となっていることが主な要因である。

令和3年度は、繰上償還や新規発行を抑えたことなどにより、実質公債費比率の分子となる額が減少している。今後も中期財政運営方針に基づき、計画的な地方債の発行を行うことで、公債費の抑制に努める。

※1 令和4年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(参考) (百万円)

		年度	H28末	H29末	H30末	R01末	R02末
※2 減債基金積立状況等	減債基金残高（注）		-	-	-	-	-
	減債基金積立相当額		-	-	-	-	-

分析欄

該当なし。

（注）減債基金残高のうち、実質公債費比率の算定に用いる満期一括償還地方債の償還の財源として積み立てた額に係るもののみを記入。

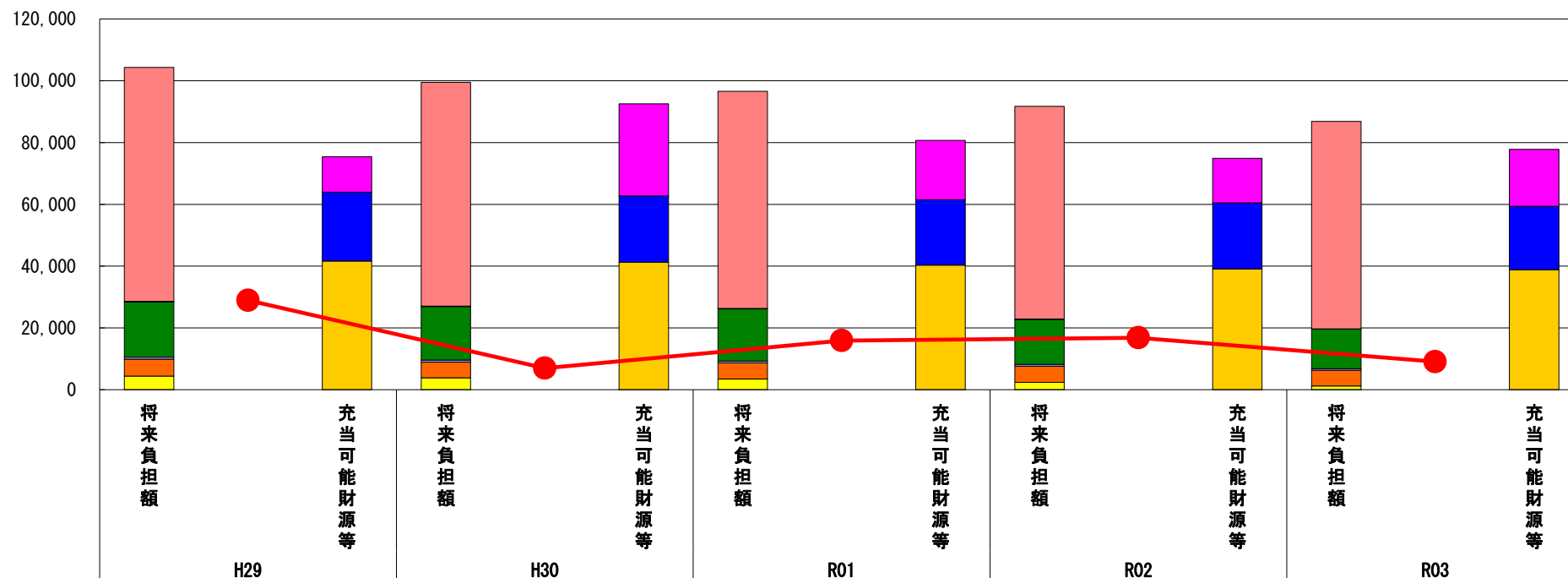
減債基金積立金の年度を超えた一般会計又は特別会計への貸付額は控除して記入。

(10) 将来負担比率（分子）の構造（市町村）

令和3年度

大阪府泉佐野市

（百万円）



（百万円）

分子の構造		年度	H29	H30	R01	R02	R03
将来負担額 (A)	一般会計等に係る地方債の現在高		75,754	72,426	70,320	68,842	67,182
	債務負担行為に基づく支出予定額		197	170	141	112	104
	公営企業債等繰入見込額		17,858	17,328	16,873	14,567	12,788
	組合等負担等見込額		667	660	616	574	519
	退職手当負担見込額		5,470	5,102	5,214	5,259	5,074
	設立法人等の負債額等負担見込額		4,405	3,825	3,446	2,366	1,209
	うち、健全化法施行規則附則第三条に係る負担見込額		—	—	—	—	—
	連結実質赤字額		—	—	—	—	—
充当可能財源等 (B)	組合等連結実質赤字額負担見込額		—	—	—	—	—
	充当可能基金		11,497	29,836	19,220	14,410	18,425
	充当可能特定歳入		22,256	21,414	21,172	21,368	20,529
		基準財政需要額算入見込額	41,664	41,293	40,327	39,119	38,858
(A) - (B)		将来負担比率の分子	28,934	6,967	15,892	16,824	9,063

分析欄

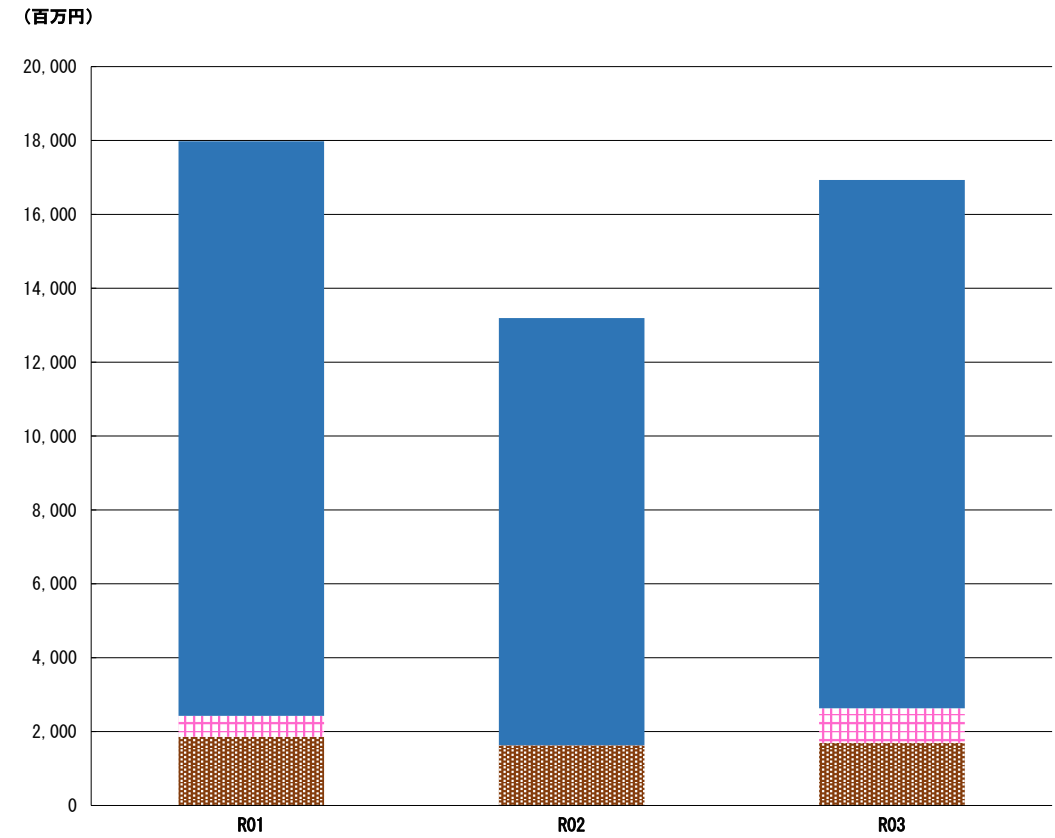
空港開港に合わせ、遅れていた都市基盤整備を進め、その財源に地方債を活用したことから多額の地方債総額を抱えることとなった。

これにより将来負担比率は、平成20年度決算で393.5%（早期健全化基準350.0%）と早期健全化基準以上となった。この主な要因は、上記の地方債残高（表中では、一般会計等に係る地方債の現在高）751億円と下水道事業会計・病院事業会計に係る公営企業債等繰入見込額約335億円によるものである。早期健全化団体となった平成20年度以降、平成21年度に宅地造成事業会計廃止で65.6億円、平成22年度に市立泉佐野病院の地方独立行政法人化で43.5億円の第三セクター等改革推進債を発行したため、一般会計等に係る地方債の現在高は平成23年度まで増加した。しかしながら、宅地造成事業会計を廃止することで連結実質赤字額を解消し、投資事業を精査し、新規の地方債の発行を抑制していることで、将来負担比率の分子となる額は減少傾向となっている。

令和3年度は地方債残高が16.6億円減少し、ふるさと応援寄附金を積立てた基金が増加したことなどで将来負担比率の分子が77.6億円減少したため、将来負担比率は40.2ポイント減少した。地方債残高は依然として高水準で推移するため、中期財政運営方針に基づき、計画的な地方債の発行とすることで、更なる比率の改善に努める。

※令和4年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく将来負担比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(11) 基金残高（東日本大震災分を含む）に係る経年分析（市町村）



年度		（百万円）		
区分	年度	R01	R02	R03
財政調整基金 減債基金 其他特定目的基金	財政調整基金	1,859	1,628	1,696
	減債基金	566	3	936
	其他特定目的基金	15,555	11,563	14,298
	公共施設整備等基金	6,312	4,014	5,985
	教育振興基金	4,166	2,757	2,393
	福祉基金	1,970	1,853	2,257
	地域経済振興基金	986	898	1,384
	環境衛生事業基金	553	546	574
基金残高合計		17,980	13,194	16,929

令和3年度	大阪府泉佐野市
基金全体 （増減理由） ふるさと応援寄附金により12,524百万円を積み立てた一方、ふるさと応援寄附金の目的に応じた事業に8,789百万円取り崩したことにより、基金全体としては3,735百万円の増となった。 （今後の方針） 中期財政運営方針に基づき、財政調整機能を有する基金の残高を可能な限り保持していくことで、安定的な財政運営を目指す。	
財政調整基金 （増減理由） - 令和2年度黒字の1/2にあたる68百万円を積立てた。 - 取り崩しがなく令和3年度末残高は令和2年度末残高と比べて68百万円増加した。 （今後の方針） 安定した財政運営を行っていくために、基金残高を保持していく。	
減債基金 （増減理由） 公共用地先行取得事業特別会計からの買戻し、普通交付税追加交付のうち臨時財政対策償還基金費の積立、市有土地の売却により933百万円を積み立てたことから、令和3年度末残高は933百万円増加している。 （今後の方針） 中期財政運営方針に基づき、地方債残高を令和6年度には標準財政規模の約2.5倍の580億円以下とするため、減債基金を活用し計画的に繰上償還を実施していく。	
其他特定目的基金 （基金の使途） 【広報公聴基金】広報及び公聴業務の円滑な運営と充実を図る経費に充当。 【国際交流振興基金】国際化の進展に伴い、国際交流の振興を図る経費に充当。 【職員福利厚生基金】職員の福利厚生に要する経費に充当。 【公共施設整備等基金】公共施設の整備を図るため並びにふるさと応援寄附金事業に要する経費及びふるさと応援寄附者が指定した事業に要する経費に充当。 【福祉基金】社会福祉活動の推進に要する経費に充当。 【環境衛生事業基金】環境衛生事業の推進に係る経費に充当。 【公園等整備基金】公園、広場及び緑地の整備に要する経費に充当。 【市営住宅整備基金】市営住宅の整備を図る経費に充当。 【地域経済振興基金】地域経済の発展と産業振興を図る経費に充当。 【自治振興基金】地域における自治活動の振興と住民自治の促進を図る経費に充当。 【教育振興基金】スポーツの振興、図書館の充実その他教育の振興に要する経費に充当。 【森林環境譲与税基金】森林の整備及びその促進に関する施策に要する経費に充当。 【退職手当基金】職員の退職手当の支払に要する経費に充当。 【災害セーフティ基金】自然災害をはじめ感染症等の危機から市民の生命及び財産を守るとともに、支援活動、復興対策等に要する経費に充当。 【公益活動応援基金】地域の各種団体が自主的に実施する地域の活性化や課題の解決に向けた公益活動への助成に要する経費に充当。 （増減理由） ふるさと応援寄附金の目的に応じた事業に取崩したこと減少した。 （今後の方針） ふるさと応援寄附金を目的に応じた事業に取崩す。	

(12)市町村公会計指標分析／財政指標組合せ分析表

令和3年度

大阪府泉佐野市

人口	98,840	人(R4.1.1現在)	実質赤字比率	-	%
うち日本人	96,986	人(R4.1.1現在)	連結実質赤字比率	-	%
面積	56.51	km ²	実質公債費比率	9.9	%
歳入総額	70,520,926	千円	将来負担比率	42.8	%
歳出総額	70,068,150	千円	市町村類型	H29 Ⅲ-3 H30 Ⅲ-3 R01 Ⅲ-3	
実質収支	385,001	千円	(年度毎)	R02 Ⅲ-3 R03 Ⅲ-3	
標準財政規模	24,512,912	千円			
地方債現在高	61,866,870	千円			

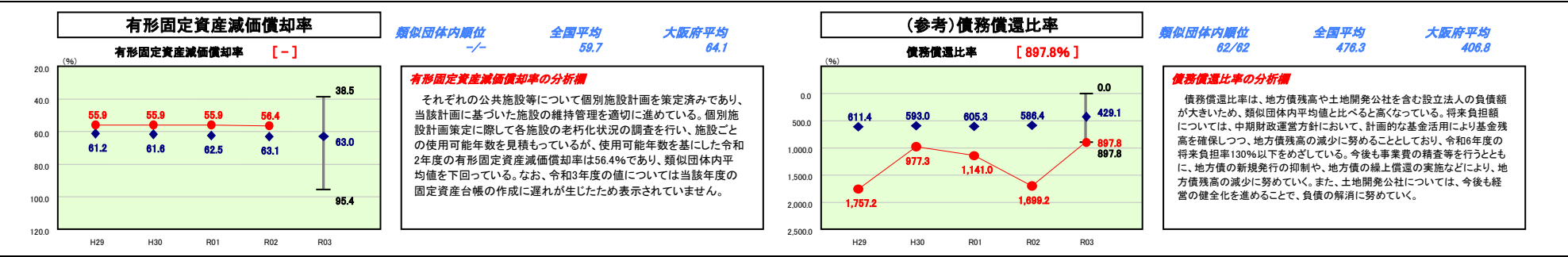
※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。

※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に記載されている人口に基づいている。

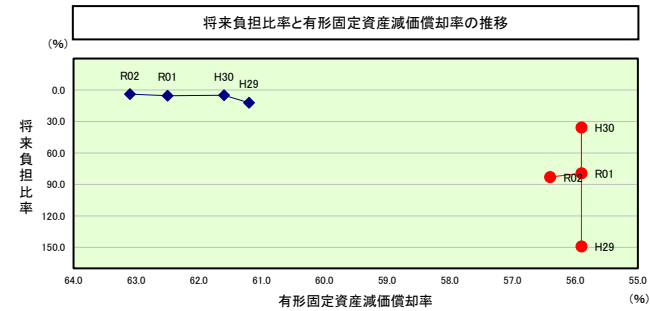
※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和3年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。

※ 令和4年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体毎の決算に基づく健全化判断比率等を算出していない団体については、債務償還比率、実質公債費率、将来負担比率のグラフを表記しない。

※ 類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答のあった団体に関するもの。



将来負担比率及び有形固定資産減価償却率の組合せによる分析

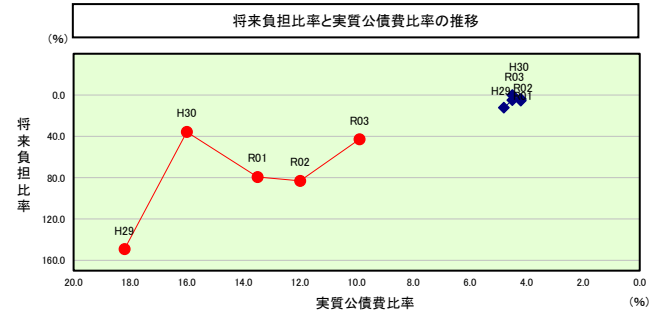


分析欄

令和2年度において将来負担比率は類似団体内平均値と比べて高い水準にある一方、有形固定資産減価償却率は類似団体内平均値よりもやや低い水準となっている。これは、公共施設等の集約化・複合化を積極的に進めてきたことにより、新たな施設の建設に係る起債額が増加する一方、老朽化した施設の除却が進んだためであると考えられる。公共施設等総合管理計画において、公共施設等の保有量を40年間(令和4～43年)で25%削減という目標を設定しており、長寿命化の取り組みを効果的に実施し、更新等費用の縮減及び財政負担の平準化を図り、保有量削減と同様の効果をもたらすように努めていく。なお、令和3年度の値については当該年度の固定資産台帳の作成に遅れが生じたため表示されていません。

(参考)		H29	H30	R01	R02	R03
当該団体値	将来負担比率	149.1	35.7	79.3	83.0	
	有形固定資産減価償却率	55.9	55.9	55.9	56.4	
類似団体内平均値	将来負担比率	12.2	5.0	5.4	3.9	
	有形固定資産減価償却率	61.2	61.6	62.5	63.1	

将来負担比率及び実質公債費比率の組合せによる分析



分析欄

将来負担比率、実質公債費比率ともに類似団体内平均値を上回っており、高水準な地方債残高が大きな負担となっている。このため、中期財政運営方針に基づき、将来負担率については、一時的に改善しているものの計画的な基金活用により基金残高を確保しつつ、地方債残高の減少に努めることで将来負担額の改善を図り、中期財政運営方針の最終年度である令和6年度においても130%以下を継続できるようめざしている。また、実質公債費率についても、地方債の繰上償還などを実施しながら令和6年度で10%以下を継続できるようめざしている。

(参考)		H29	H30	R01	R02	R03
当該団体値	将来負担比率	149.1	35.7	79.3	83.0	42.8
	実質公債費比率	18.2	16.0	13.5	12.0	9.9
類似団体内平均値	将来負担比率	12.2	5.0	5.4	3.9	0.0
	実質公債費比率	4.8	4.5	4.2	4.2	4.5

(13)-1市町村施設類型別ストック情報分析表①

令和3年度

大阪府泉佐野市

人	口	98,840	人(94.1.1現在)	実	質	赤	字	比	率	-	%		
人	うち日本人	96,998	人(94.1.1現在)	連	続	実	質	赤	字	比	率	-	%
面	積	56.51	km ²	実	質	公	債	費	比	率	9.9	%	
農	入	70,520,928	千円	得	来	負	担	比	率	42.8	%		
業	出	70,068,150	千円	市	町	村	類	型		H29 Ⅲ-3	H30 Ⅲ-3	R01 Ⅲ-3	
業	費	385,001	千円	(	年	度	毎	)		R02 Ⅲ-3	R03 Ⅲ-3		
標	準	24,512,912	千円										
方	債	61,866,870	千円										

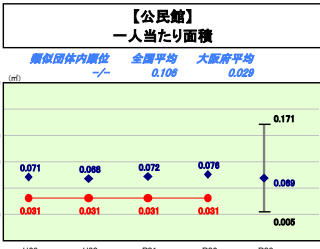
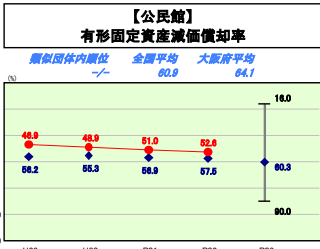
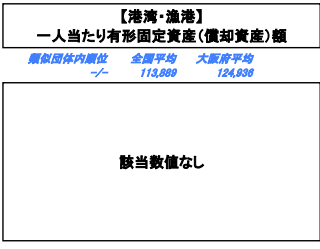
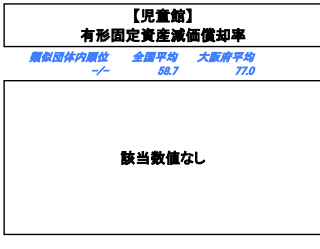
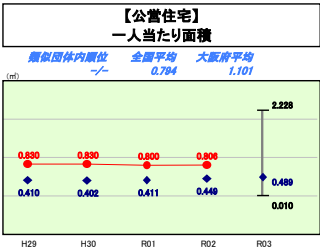
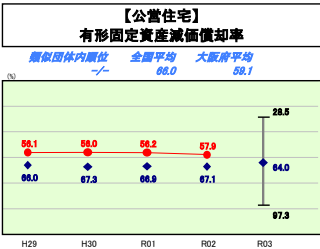
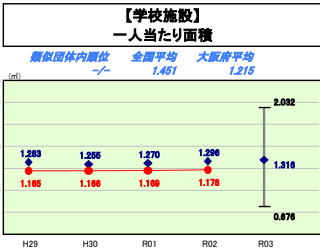
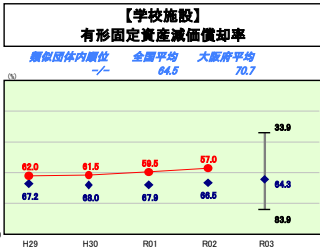
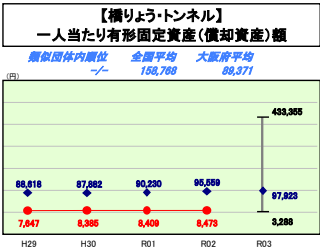
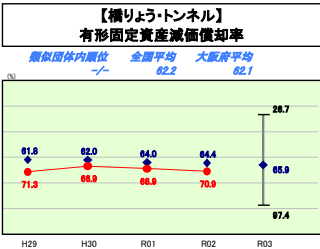
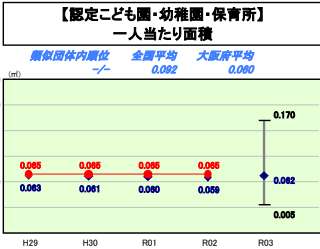
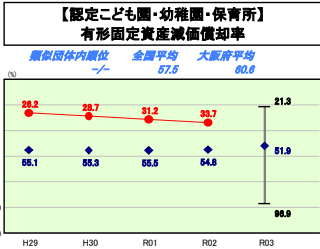
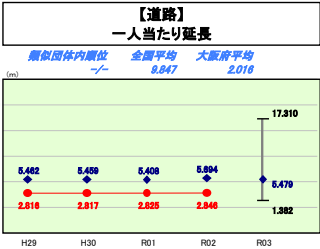
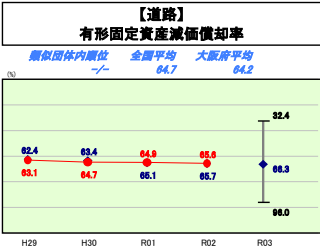


※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。

※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に記載されている人口に基づいている。

※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和3年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。

※ 類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答のあった団体に関するもの。



施設情報の分析欄

令和2年度において、類似団体内平均値と比較して有形固定資産減価償却率が低くなっている施設は、認定こども園・幼稚園・保育所、学校施設、公営住宅、公民館である。これは、幼稚園や保育所の民間への委託化やこども園化により施設数が減ったことと、学校施設等の建替えが行われたことによるものである。一方、類似団体内平均値と比較して有形固定資産減価償却率が高くなっている施設は橋りょう・トンネルであり、インフラ整備の老朽化が進んでいることによるものである。本市では、高度経済成長期以降の昭和40～50年代に教育系施設、行政系施設を中心に多くの施設が整備され、令和3年10月末現在で大規模改修が必要となる建築後30年を経過している公共建築物は、全体の41.5%を占めている。今後も、中期財政運営方針に基づき、安定した財政運営を目指すとともに、公共施設等総合管理計画などに基づき公共施設の適正な管理に努めている。なお、令和3年度の値については当該年度の固定資産台帳の作成に遅れが生じたため表示されていません。

(13)-2市町村施設類型別ストック情報分析表②

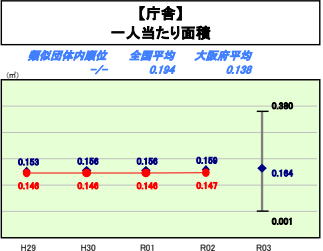
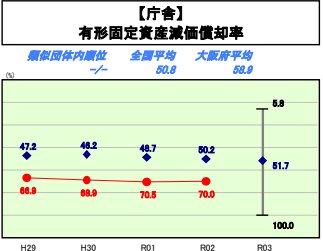
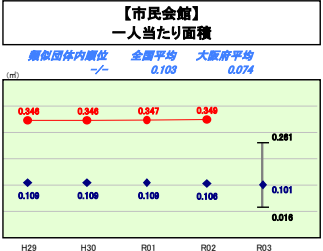
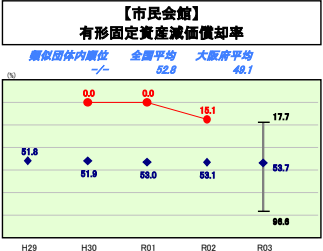
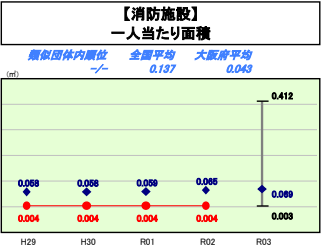
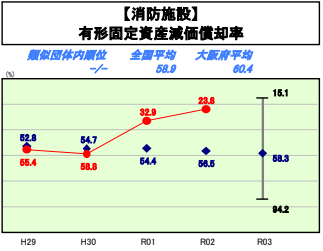
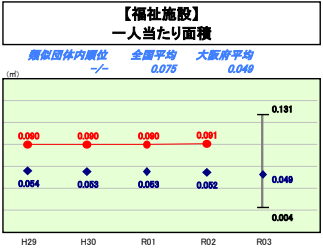
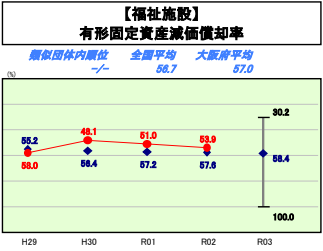
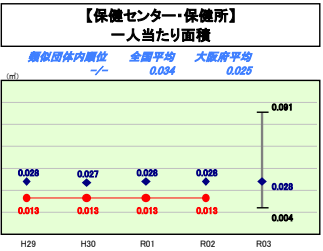
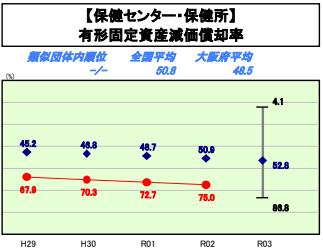
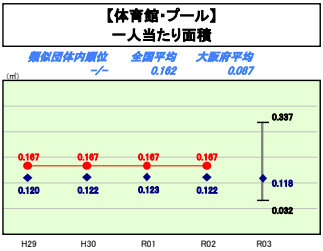
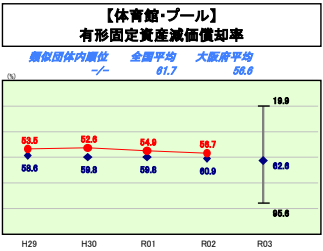
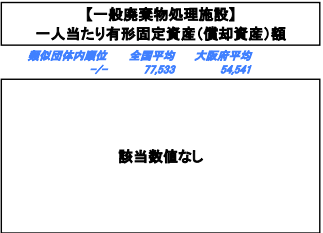
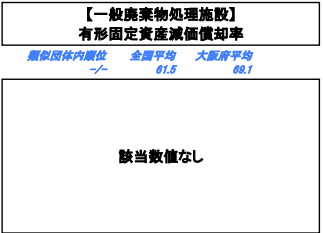
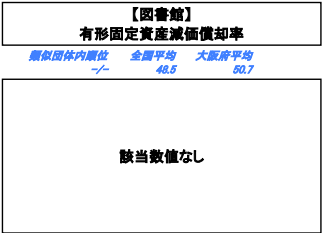
令和3年度

大阪府泉佐野市

人	口	98,840	人(94.1.現在)	実 資 産 率 比 率	-	%		
	うち日本人	96,998	人(94.1.現在)	通 算 実 資 産 率 比 率	-	%		
面	積	56.51	km ²	実 資 産 公 債 費 比 率	9.9	%		
産	入 総 額	70,520,928	千円	特 定 負 担 比 率	42.8	%		
産	出 総 額	70,066,150	千円	市 町 村 類 型	H29 Ⅲ-3	H30 Ⅲ-3	R01 Ⅲ-3	Ⅲ-3
実	収 支	395,001	千円	(年 度 毎)	R02 Ⅲ-3	R03 Ⅲ-3		
標	準 財 政 規 模	24,512.912	千円					
地	方 債 残 高	61,866,870	千円					



※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に記載されている人口に基づいている。
※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和3年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。
※ 類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答のあった団体に関するもの。



施設情報の分析

令和2年度において、類似団体内平均値と比較して有形固定資産減価却率が高くなっている施設は、保健センター・保健所、庁舎である。こうした施設では、大規模改修などの整備ができなかったことにより、老朽化が進んでいる。令和3年10月末現在で大規模改修が必要となる建築後30年を経過している公共建築物は、全体の41.5%を占めており、今後、中期財政運営方針に基づき、安定した財政運営をめざすとともに、公共施設等総合管理計画などに基づき公共施設の適正な管理に努めていく。なお、令和3年度の値については当該年度の固定資産台帳の作成に遅れが生じたため表示されていません。